



まこと館だより

Est.1912

発行：至誠学舎立川 編集：法人事務局



理事長閑話 うめ草⑦



～時代切り替え時の幸運と自覚～

去る 3 月、たまたま職員のスキーツアーで蓼科山の温泉「親湯」に宿泊をする機会がありました。宿は山懐に抱かれ清流の流れる溪谷にあります。昔は交通の便も悪く、信玄の隠し湯とされ、農閑期に利用される村の湯治湯でした。しかし昭和の初期、伊藤左千夫、土屋文明等の文人や、戦後映画監督の小津安二郎らが愛した温泉として知られるようになりました。

私も昔、八ヶ岳、北八ヶ岳、蓼科山などの登山や、四季折々のアウトドアライフなどでこの山域を訪ねる機会もよくあったので親湯温泉は知っていました。今回宿泊して山奥の温泉にしては重厚な建物なのに垢抜けた佇まい、よくトレーニングを受けているスタッフと接客、懐石風のお料理、そして料金もリーズナブル、勿論温泉自体も湯治湯として人気あっただけあって極上、自家源泉、無色透明の弱酸性美人の湯でスキーに疲れた筋肉がほぐされました。

さて旅館のエンタランス、ラウンジに立ったときに、壁に意匠されたデザイン文字に目が留まり、「おや」と思わせられた事があります。そこには「蓼科親湯温泉 創業大正 15 年」と刻まれていたのです。旅館業としての体裁と体制が整えられたのがその年だったのです。

気が付きますか？大正 15 年は昭和元年です。細かく言えば大正天皇は 12 月 25 日にご逝去（崩御）されました。ということで昭和元年は 6 日間だけだったのです。戦前で天皇の位置づけも今とは違い神様に近いものだったのでしょう。そして年末に国の喪が始まったので世間は対応が大変だったと聞きます。しかし親湯にとっては大正時代に滑り込みセーフで創業できたのです。やはり昭和元年創業と言うより、同じ年で有りながら大正時代に創業といえる事が親湯のセールスポイントにもなっているのです。

振り返り、至誠学舎立川の創業は明治 45 年 6 月です。明治の時代から「まことの心」を理念として 100 年を越す社会（福祉）事業一筋の名門社会福祉法人、それが私たちの誇りでもありセールスポイントです。そこで皆さん知っていますか。明治 45 年は 7 月 30 日までだったのです。これも滑り込みセーフで明治の創業なのです。それで至誠学舎立川は明治時代から続く法人と胸を張って PR できるのです。幸運な事でした。

勿論至誠学舎立川の事業内容は、社会が、行政が、そして利用者が信頼と評価をしてくださっています。でも大切なのは長い歴史が裏打ちをしているサービスの質の高さと、担っているスタッフの意識と専門性の高さです。歴史を生かして今の事業がある、そして時代の幸運もそれを支えてくれているという事に謙虚に感謝したいと思います。今、平成から「令和」へ時代が変わるとき改めて自覚をしておきたい事です。

理事長 橋本正明

事業本部長メッセージ

この季節になると「目には青葉 山ほととぎす 初鯉」の句が思い浮かびます。1678 年の『江戸新道』に収録されている山口素堂の作ということです。340 年の時を経てもなお、五感を揺さぶられる新鮮さを感じます。

4 月 4 日、至誠学舎福祉振興会創設者墓参が、両法人の理事長以下 40 名の幹部職員が参列し執り行われました。きれいに晴れ渡った空のもと桜の花が美しい暖かな日和に恵まれました。創設者の四女である橋本富美子先生も参列され式のご挨拶をされました。富美子先生は今年 98 歳になられました。そのお話は、若い人への戒めをさりりと含めユーモアを交えながら創設者の思いと理念が継承されていることへの感謝、未来へつなげていくことへの願い、そして職員の健康への気遣いのことばでまとめられました。まことに簡潔で、メリハリと輝きを感じるご挨拶でした。至誠学舎が、いつの時代にも創造的な取り組みをしている基盤には「まことの心」の理念による実践があることを改めて思いました。

児童事業本部長 高橋久雄



事業本部情報

♥児童事業本部♥

それは昔、新年度への切り替わり、変化への対応や混乱もようやくひと段落した頃、大きなイベントの準備・作業に追われて心身ともに疲労困憊していた夕暮れ時でした。園庭に植えられているツツジが、すでに薄暗くなった辺りの中で、ぼんやりとした明るさを放っているように見えたのです。近寄って覗き込むと、ピンクやウスマラサキといった花を支えるかのように、まだ小ぶりで産毛に覆われた緑の若葉たちがたっぷりの水分を含んでキラキラと、それ自体が光を放っているかのように輝いていました。こんなにも美しい緑色の存在に気付いたのは、恥ずかしながら、その時が初めてでした。植物の営みの奥深さ、その神秘性に尊敬の念をいだくとともに、心洗われ清々しい気持ちになるような不思議な感覚でした。

以来、この季節になると、あの時の感動を想いだして、守られてきたこの環境に感謝しながら、つかの間、庭の木々を楽しんでいます。身近なところのちょっとした自然の中に、私たちの生活を少し豊かにしてくれる何かが、きっとあると思います。

みなさん、忙しいときだからこそ、ほんの少しだけでも、散歩に出かけてみませんか？
「平成」最後の散歩でも、「令和」最初の散歩でも。

(法人理事・至誠学園 施設長 石田芳朗)

♥保育事業本部♥

代々木至誠こども園は、4月に28名の新入園児を迎え133名で7年目をスタートしました。当園は保育所型認定こども園として、就労していない保護者の方も利用できる幼稚園的な役割を備えています。就労していない保護者の方は“マーニの会”を発足し、子ども達の教育・保育に必要な様々な教材を作り支えて下さっています。園の教育のポイントを知り、保護者同士の交流の場にもなる為、現在も積極的に活動継続中です。

園の在る代々木地区は唱歌「春の小川」の舞台になったとされ、5月に行われる町会主催の「春の小川合唱祭」では、作詞者の高野辰之氏、作曲者岡野貞一氏の御親族の方を迎え地域の小学生が合唱します。このような地域の行事参加を通し、町会との繋がりが深まり、いざという時の防災組織の連携へと向けています。地域のニーズに根ざした拠点として今年も邁進してまいります。

(代々木至誠こども園 園長 稲永 裕子)

♥高齢事業本部至誠ホーム♥

いよいよ令和元年。高齢事業本部での平成最後にスタートした至誠ホームオン二。特養とともに看護小規模多機能型居宅介護支援（通称看多機^{かんたき}）もスタートしました。立川市でも初めての事業形態で、社会的な認知も進んでいません。事業の概略は、通い、泊り、看護と介護の訪問とケアマネジメントを一体的に提供する形。これまでの在宅サービスは、ニーズに応じ複数の事業所をケアマネジャーが調整しながら支援体制を構築する形でしたが、ひとまとめに定額制で利用できます。認知症等を患い環境の変化への適応が難しい方、単身世帯や老夫婦世帯など、医療ニーズへの対応も含め、顔なじみの関係で、ワンストップでサービス提供できることは大きなメリットです。まだまだ体制を創り上げている状況ですが、地域の期待に応えられるように努力していきます。

また、開設記念式典でも実演したフットケア。特養でも看多機でも、フットケアをベースに、足元からのケアを重視することも大事にしていきます。看多機開設に伴い、地域の事業所へ挨拶に回ると、「フットケアができるのですか！！」と、大きな期待も感じます。

まだまだ産声を上げたばかりの施設ですが、一步一步、前に進んでいきたいと思えます。

(至誠コミケアセンター兼至誠オン二ケアセンター センター長 宮本智行)

本部事務局だより

またしても池袋の街中で高齢者の運転する車が暴走し、3歳の女の子と31歳の母親が犠牲になり、8人が重軽傷を負うという痛ましい死傷事故が発生した。80歳以上の高齢ドライバーによる死亡事故は年々増加して、去年1年間では252件（警察庁発表）。9年連続で200件を超える結果になっているようだ。

私の父（88歳で死亡）も80歳を超えてなお、ハンドルを放そうとしなかった。長年運転してきた自負なのか、老人性頑固症なのか、家族がいくら言っても聞き入れない。道を間違えるのは序の口で、運転中に行き先を忘れ、あらぬ方向へ向かってしまう。とうとうハンドル操作とブレーキ操作を誤り、田んぼの中を走りまわるに至り、本人もようやく観念し免許証を返還した。

田舎では車が無いと買い物も病院にも行けず、家に閉じこもってしまう。冬が長く雪深い地域では、冬季の閉じこもりは、精神的にも健康的にも大問題である。要介護認定基準に満たない社会的弱者になりがちな高齢者への支援なしに、運転免許証の返還だけを訴えてもなかなか進まないだろう。北風で吹き飛ばそうとするのではなく、温かい光で免許を返上してもらおう術を探さなければならない。
(法人事務局 局長 野島忠幸)

<編集後> 法人事務局の大きな窓からの景色は最高です。日に日に色付く木々の向こうに、お隣至誠保育園の子ども達の元気な姿を見ることが出来ます。時折聞こえる鳥の声をBGMに、今日も癒されながら仕事をしています。